

平成26年度決算による連結財務書類を作成



市では、国の指針に基づき自治体の会計の透明性を高めるため、連結財務書類4表を作成しました。

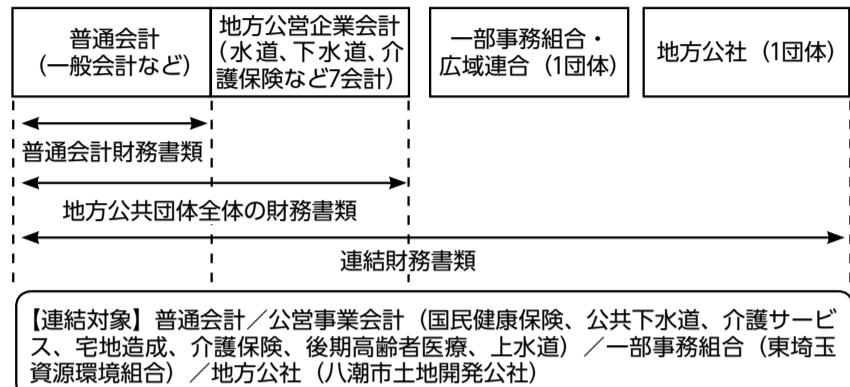
問財政課内306

連結財務書類4表とは？

財務書類とは、民間企業の考え方を基に作成した市の決算書です。財務書類にはいくつかの作成方法がありますが、市では「総務省方式改訂モデル」に基づき作成しています。

財務書類は、右図のように「普通会計財務書類」「地方公共団体全体の財務書類」「連結財務書類」の3つに分けられます。連結財務書類では、市だけではなく出資法人などの関係団体も含まれます。

財務書類4表とは、1.行政コスト計算書、2.資金収支計算書、3.純資産変動計算書および4.貸借対照表を指します。



1.行政コスト計算書

行政コスト計算書は、平成26年度に八潮市と関係団体がサービスを提供するために費やしたヒト・モノ・カネの状況を示しています。経常収益には公営住宅の家賃などサービスの対価だけが計上され、税金は計上されません。

経常行政コスト

411億9千万円

内訳	①人にかかるコスト (職員給料、議員報酬、平成26年度に増えた退職金の金額など)	54億円
	②物にかかるコスト (消耗品費、臨時職員の人事費や委託料など)	116億6千万円
	③移転支出的なコスト (社会保障給付、補助金など)	224億4千万円
	④その他のコスト (公債費の利子など)	16億9千万円

-

経常収益 (使用料、手数料など)

139億1千万円

II

純経常行政コスト (経常行政コスト - 経常収益)

272億8千万円

2.資金収支計算書

資金収支計算書は、現金の流れを示しています。

期首資金残高 (平成25年度末の手持ち資金)

53億7千万円

+

当期収支 (①+②+③)

- ①経常的収支 76億8千万円
- ②公共資産整備収支 △21億1千万円
- ③投資・財務的収支 △46億9千万円

8億8千万円

II

期末資金残高 (平成26年度末の手持ち資金)

62億5千万円

(期首資金残高 + 当期収支)

これらの表から
分かること

○経常行政コストでは、社会保障給付など福祉のコストが約57.2パーセントを占める高い割合になっています。

○市民1人当たりの資産は約219万円、負債は約86万円です。

3.純資産変動計算書

純資産変動計算書は、1年間に純資産がどのように増減したかを示しています。

期首純資産残高 (平成25年度末純資産額) 1,189億5千万円

+

当期変動高 (平成26年度中の資産の増減)

- | | |
|---------------------|-----------|
| ①純経常行政コスト | △272億8千万円 |
| ②一般財源等 (市税、地方交付税など) | 180億9千万円 |
| ③補助金等収入 | 116億6千万円 |
| ④臨時損益 | △4千万円 |
| ⑤資産評価替・無償受入 | △1億7千万円 |
| ⑥その他 | △72億4千万円 |

△49億8千万円

II

期末純資産残高 (平成26年度末純資産額)

1,139億7千万円

4.貸借対照表

貸借対照表は、どれだけの資産や現金があるか、その資産がどのような財源で構成されているのかを示しています。下の表は左に市の資産、右に負債と純資産を示しています。

資産

1,880億円

※現在、市が保有している財産

内訳

- | | |
|-------------------------------|------------|
| ①公共資産 (道路、学校、公園など) | 1,553億1千万円 |
| ②投資等 (基金、出資金など) | 137億3千万円 |
| ③流動資産
(手持ち資金62億5千万円、未収金など) | 189億6千万円 |

負債

740億3千万円

※借入金など、将来世代が負担する金額

内訳

- | | |
|------------------|----------|
| ①固定負債 (市債など) | 655億2千万円 |
| ②流動負債 (翌年度償還金など) | 85億1千万円 |

純資産

1,139億7千万円

※これまでの世代がすでに負担した金額で次世代に引き継ぐ正味価値の総額

合計

1,880億円

合計

1,880億円